

陸上動物分野の研究成果概要

坂巻祥孝

Outline for Progress Reports of Terrestrial Animal Research Section

SAKAMAKI Yositaka

鹿児島大学農学部

Faculty of Agriculture, Kagoshima University

九州本土の典型的な温帯域の動物相と琉球や台湾の亜熱帯の動物相をつなぐ「飛び石」のように南北に一列に連なった島々が薩南諸島である。この地域は温帯から亜熱帯への動物相の移行帯と考えられており、きわめて多くの野生動物の分布南限および分布北限が薩南諸島地域に存在している。そのためこの諸島全体を一つの地域ととらえると陸地面積の割には動物相が非常に多様であるといえる。また、その分布南限や北限を超えると、似たような動物が何もないこともあれば、近縁種(亜種)が分化している場合もある。そして、その境界が海で隔てられる島と島の間になることから、動物相の切れ目が予想しやすく、生物地理学的な研究に向けた地域といえる。

さらに薩南諸島の屋久島、トカラ列島、奄美大島、徳之島などには九州本土のものとも琉球のものとも異なる、多くの固有種・固有亜種の動物が生息することが知られている。しかし、これら固有種・亜種の各島内での詳細な分布域、基礎的な生活史情報、個体群サイズ・希少性、人間とのかかわりなどについてはまだまだ知られていないことが多い。

陸上動物分野では今年度以下の7つのテーマについて研究を行った。研究内容は、薩南諸島の多様性の現状把握、多様性を維持している仕組みの研究、多様性が脅かす現象の把握、多様性を守るための対策という4つのカテゴリーに大別される。

【多様性の現状把握】

「奄美大島での人囮法によるブユ採集」(大塚 靖)

「薩南諸島の陸産貝類の生物多様性に関する現況調査」(富山清升)

【多様性を維持している仕組みの研究】

「台湾エンマコオロギの雄間闘争に対する血縁関係の影響」(栗和田 隆)

【多様性が脅かす現象の把握】

「奄美群島のアリ類の調査および北琉球における放浪性アリ類の調査」(福元しげ子)

「林道の観光利用がアマミノクロウサギに与える影響評価」(鈴木真理子ら)

「徳之島および喜界島産ゴマダラカミキリ類における遺伝子汚染」(坂巻祥孝ら)

【多様性を守るための対策】

「喜界島における昆虫病原性糸状菌製剤によるゴマダラカミキリの生物的防除」(津田勝男ら)